

地域のボランティアコーディネーター養成講座中級編報告書

見て共有する会議技術を学ぶ

～「見えたらわかった!!」で会議が変わるファシリテーショングラフィックを学ぼう～

- 1 事業名：指定管理事業
- 2 実施日：平成26年11月27日
- 3 目的：円滑な会議運営のためのスキルを身につける
- 4 内容：ファシリテーショングラフィックの手法を用いて、「会議の見える化」を体験し、その効果を実感する。
- 5 参加者：行政職員7名・自治会長6名
- 6 講義：

(1) 概要

「見て共有する会議」とは、言葉が飛び交っている議論を「描く」こと、「参画と協働」とは脱トップダウンであるので、会議の重要性が非常に問われる。

会議がうまくいかない理由として、話が脱線する、衝突する、意見が合わず摩擦が起きるといことがあげられる。それを解消するための手段として、発言した意見が見えるファシリテーショングラフィックは非常に効果的である。

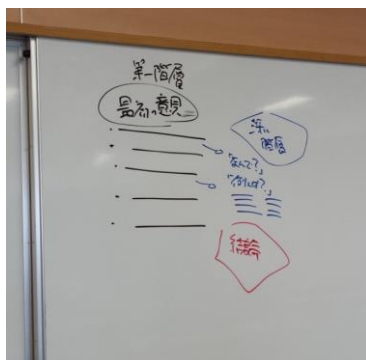
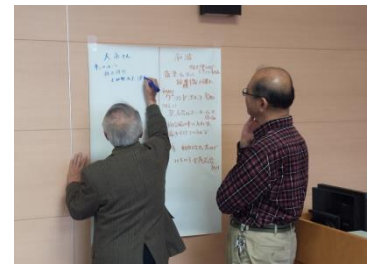
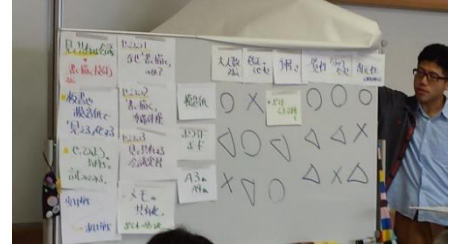
(2) ファシリテーショングラフィックのコツ

- 縦を太線、横を細線で書く
- 漢字を大きめ、平仮名を小さめに書き、□に収まるように書く。
- 色は、大項目…紫、中項目…青（それに対する意見…緑、補足…茶）、決定事項及び重要事項…赤、参考意見や今回のテーマから外れるが今後必要になりそうな意見…黒、強調やポイントとなる意見…黄色・橙といった風に使い分けると見やすい。

(3) ワークショップのポイント

- 話を聴く→蓄える→書く（描く）の作業を行うことで、見やすいファシリテーショングラフィックが描ける。（最初は聴く→書くから始める）
- 「蓄える」ことでより話の要点をつかんだファシリテーショングラフィックになる。
- 「立って書くことに慣れる」…少人数の会議では、机の上に紙を置いて話しながら書くことも可能だが、ある程度の人数になると、ホワイトボードや模造紙（壁面に貼りつけたもの）に立って書くことになるため。
- 課題により様々な形状のファシリテーショングラフィックがあることを体験する。今回は、メリット・デメリットを書きだす形と発言された意見を仲間分けするような形のファシリテーショングラフィックを体験した。

- (4) 効果：自治会の会議はもとより市の会議ですらホワイトボードを使用した会議が少ない現状での講座は、休憩時間に参考文献を手にする受講者が多かったことから、かなり効果をあげたように思われる。ただ、グループワークの課題が現実味を帯びていたために、受講者の意識がファシリテーショングラフィックよりも課題に集中してしまったことが、反省点としてあげられる。今回の研修だけで終わらず、庁内の会議や地域の会議で活用（練習）してもらえることを期待する。



【会議の流れ】

1. 出た意見を羅列する。
2. それぞれの意見に対して「なぜ?」「何のために?」といった問いかけをして深めていく。
3. 2の議論を繰り返し結論へと向かう

